

教科担任制指導部会の研究

主 題

児童のよさを認め、学習意欲を喚起するための指導法の改善 —— 6 学年における教科担任制を通して ——

I 主題設定の理由

1 習熟度別指導との関連から

本校では算数科の指導形態として、1～2 学年では少人数指導を、3 学年以上では習熟度別指導を取り入れ、児童の学びの特質に応じたきめ細かな指導を通して、分かる喜びを味わわせる学習を進めてきた。その結果、平成13年4月に実施したCRTでは、全国平均を下回っていた3～6 学年の算数の総合通過率が平成15年2月には全国平均を上回るまでに向上した。

本校の3 学年以上の児童は、学級の枠を外した習熟度別指導により、算数担当教師の指導を受ける経験を積んでいることから、教科担任制導入に際して障壁となるであろう学級担任以外の教師の指導を、抵抗なく受け入れる素地はできていると考えられる。

2 児童の発達段階との関連から

6 学年の児童は、社会全体の価値観の多様化に伴い、興味・関心が様々に広がるとともに、発達の心的と体のバランスがとりにくい不安定な時期を迎えている。児童が、自分のよさや能力など様々な可能性に気づき自信をつけていくためには、同級生や親、そして教師からも認められる経験が不可欠である。

算数以外の教科においても、多くの教師が児童と関わり、複数の目と心で一人一人のよさを様々な角度からとらえ認めて支援していく教科担任制の導入は、児童の発達を促すうえでも有効である。

6 学年の児童は中学校進学に際して、学習面では教科担任制に対して強い不安を抱いている。中学校入学を控えた6 学年で教科担任制を経験することは、このような児童の不安を軽減するためにも有効であると考えられる。

3 学習意欲向上のために

文部科学省が平成15年度に実施した「学校教育に関する意識調査」によると、学年が進むにつれて「学校生活への満足度」(図1)と「授業の理解度」(図2)が低下することが分かった。

児童は、いろいろな経験をもとに考えたり、学習し理解した内容について「さらに詳しく知りたい」「深く調べてみたい」という欲求をもっている。

図-1 学校生活への満足感

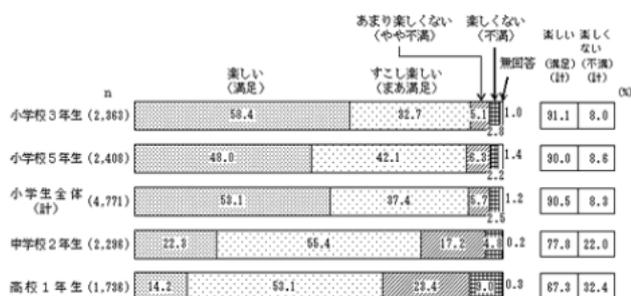
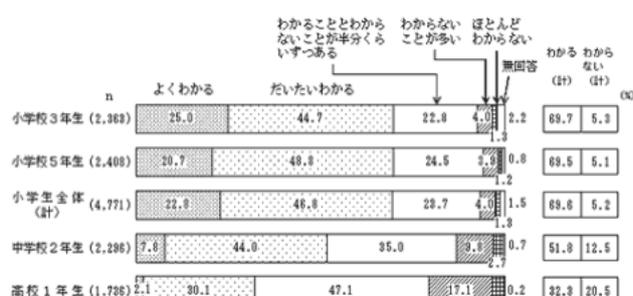


図-2 学校の授業の理解度



【 学校教育に関する意識調査 (文部科学省 平成15年度実施) より 】

物事を論理的・抽象的に思考する力が著しく伸び知的欲求が高まる6学年のこの時期に、教科担任制の導入により、教師の得意分野を生かした分かる授業づくりを通して、一人一人の児童のよさを大切にしつつ、基礎的・基本的事項を確実に理解させ、学習意欲を一層高めていきたいと考える。

以上の理由から、本校では6学年において児童のよさを認め学習意欲を喚起するための指導法の改善をめざし、教科担任制を導入した。

II 教科担任制導入の基本的な考え方と手だて

1 児童一人一人を多面的にとらえ、よさや可能性を引き出す。

- 
- 多くの教師が児童を指導していくことにより一人の担任では気づかない面を発見できるように、情報交換を密にする。
 - 年齢や性別の違う複数の教師とふれ合う機会を増やすことにより、いろいろな考え方や感じ方があることに気づかせる。
 - 常に学年担任としての意識をもちながら学年全体の児童の指導にあたる。

2 教師の得意分野を生かした授業を行い、児童の学習意欲を喚起し持続させる。

- 
- 児童が適度な緊張感を保ちながら学習に臨み、知的好奇心を高めながら学ぶ楽しさや分かる喜びを味わえるようにするために、教科ごとに担当者が替わることのメリットを生かした授業を進める。
 - 魅力ある授業を提供するために、担当する教科の教材研究や教材準備の時間を確保する。
 - 授業時数を確保することにより、各教科の学習内容の定着を図る。

3 教師の指導力のスキルアップを図る。

- 
- 各学級の児童の特徴をつかみながら、その実態に合わせた指導を工夫することで、教師の指導力を向上させる。
 - 同じ単元を複数回指導することにより、指導を振り返り、教材研究の深化と指導力の向上を図る。

4 中学校へのスムーズな移行を図る。

- 
- 中学校での教科担任制へスムーズに移行させるために、学級担任制のよさを生かしながら学級担任以外の複数教師の指導に慣れさせる。

Ⅲ これまでの経緯

1 平成14年度（導入までの経緯）

- ・11月の学習指導部会において「授業改善に向けた『高学年における学習形態の工夫』」という観点から、教科担任制の導入が提案された。
- ・部会での数回に及ぶ話し合いを経て12月に学習指導全体会を開き、全職員で導入に関する話し合いを行った。
- ・児童の発達段階や学習意欲、教師の専門性、専科との相違点や人員配置の問題等、様々な問題について意見交換を行った結果、平成15年度から6学年において教科担任制を導入することを決定した。
- ・年度末学年懇談会において、次年度に導入予定の5学年保護者への説明を行った。

2 平成15年度（導入初年度）

- ・PTA総会における校長から導入の説明、学校だより、PTA広報紙等を通して、保護者に対して教科担任制の説明を行った。
- ・指導体制は、6学年の学級担任、教務主任、研究主任、算数担当の計8名とし、学級担任は算数のグループも担当した。
- ・学習パスポートを作成した。（P38参照）
- ・6学年児童と保護者を対象に「教科担任制に関する調査」を実施した。
- ・学年懇談会において保護者に対し、教科担任制による指導の経過及び調査結果の報告を行った。
- ・教科担任制用の通知票を作成した。

3 平成16年度（導入2年目）

- ・指導体制は、6学年の学級担任、教務主任、研究主任、算数担当の計7名とし、学級担任と研究主任は算数のグループも担当した。
- ・「教科担任制に関する調査」を6学年児童と保護者を対象に実施した。併せて中学1年生への追跡調査も実施した。
- ・学年懇談会において保護者に対し、教科担任制による指導の経過及び調査結果の報告を行った。
- ・近隣中学校公開研究会へ参加し、中学校における教科担任制について研修した。

4 平成17年度（導入3年目）

- ・指導体制は、6学年の学級担任、教務主任、研究主任、算数担当の計8名とし、算数のグループ指導は学級担任以外が担当することとした。
- ・前年度に引き続き、6学年児童と保護者を対象に「教科担任制に関する調査」を実施すると共に中学1年生への追跡調査を実施した。
- ・教科担任制の取り組みに関して校内報告会を開き、教科担任制の成果及び今後の課題について検討した。
- ・学年懇談会において保護者に対して、教科担任制についての経過報告を行った。
- ・近隣中学校公開研究会へ参加し、中学校における教科担任制について研修した。
- ・教科担任制実践校への視察、及び公開研究会の参加を通して研修を深めた。

IV 具体的な取り組み

1 児童理解について

学級担任として、学級の児童を理解し学級づくりに取り組むための期間として、4月当初の約1週間は教科担任制を行わない。学級や個人のめあて、係活動、所属委員会等を決めるための学級活動の他に、学年当初に決めておかなければならないことをこの期間を利用して決定する。

教科担任制の導入にあたり、多くの教師からデメリットとして「学級担任とふれあう時間が少なくなり、児童一人一人を十分理解できなくなるのではないか」ということが挙げられた。従来に比べて学級担任が学級の児童を指導する時間が制約されることについては、担当者同士が教科指導や児童の様子について情報交換を密にし、連携を強化することにより問題を解消している。日ごろから学年会や休憩時間等の短い時間を利用して随時情報交換を行い、児童理解に努めている。

2 担当教科と担当時数について

① 担当教科

学級担任の他に教務主任と研究主任、算数担当教員が指導にあっている。

② 担当時数

担当者間で話し合い、時数を調整しながら担当教科を決定した。

【表1 平成17年度 教科担当及び週指導時数】

	担当教科・領域	時数合計
6の1担任	理科・図工・体育・総合・道徳・学活	19.5
6の2担任	音楽・家庭・体育・総合・道徳・学活	22.5
6の3担任	国語・体育・総合・道徳・学活	22.5
教務主任	社会・算数	13.5
算数は、研究主任及び算数担当が指導		各4.5

	月	火	水	木	金
1	音楽	家庭	国語	算数	図工
	国語	国語	理科		音楽
	理科	理科	社会		国語
2	算数	国語	算数	体育	図工
		図工		体育	国語
		音楽		体育	家庭
3	社会	算数	総合 3組 情報	家庭	総合
	国語			国語	2組
	図工			社会	情報
4	国語	社会	社会	国語	算数
	社会	理科	国語	社会	
	図工	国語	理科	家庭	
5	理科	総合 1組 情報	理科	学活	道徳
	家庭		社会		道徳
	国語		国語		道徳
6		体育			国語
		体育			体育
		体育			社会

【表2 平成17年度A週時間割】

	月	火	水	木	金
1	理科	理科	国語	算数	国語
	社会	家庭	理科		音楽
	国語	国語	家庭		社会
2	国語	音楽	算数	理科	図工
	家庭	国語		音楽	国語
	理科	理科		体育	音楽
3	国語	算数	総合 3組 情報	社会	総合
	理科			図工	2組
	音楽			国語	情報
4	道徳	社会	体育	国語	算数
	道徳	理科	社会	図工	
	国語	道徳	国語	社会	
5	社会	総合 1組 情報	家庭	学活	音楽
	国語		国語		社会
	図工		社会		国語
6		体育			体育
		体育			体育
		体育			体育

【表3 平成17年度B週時間割】

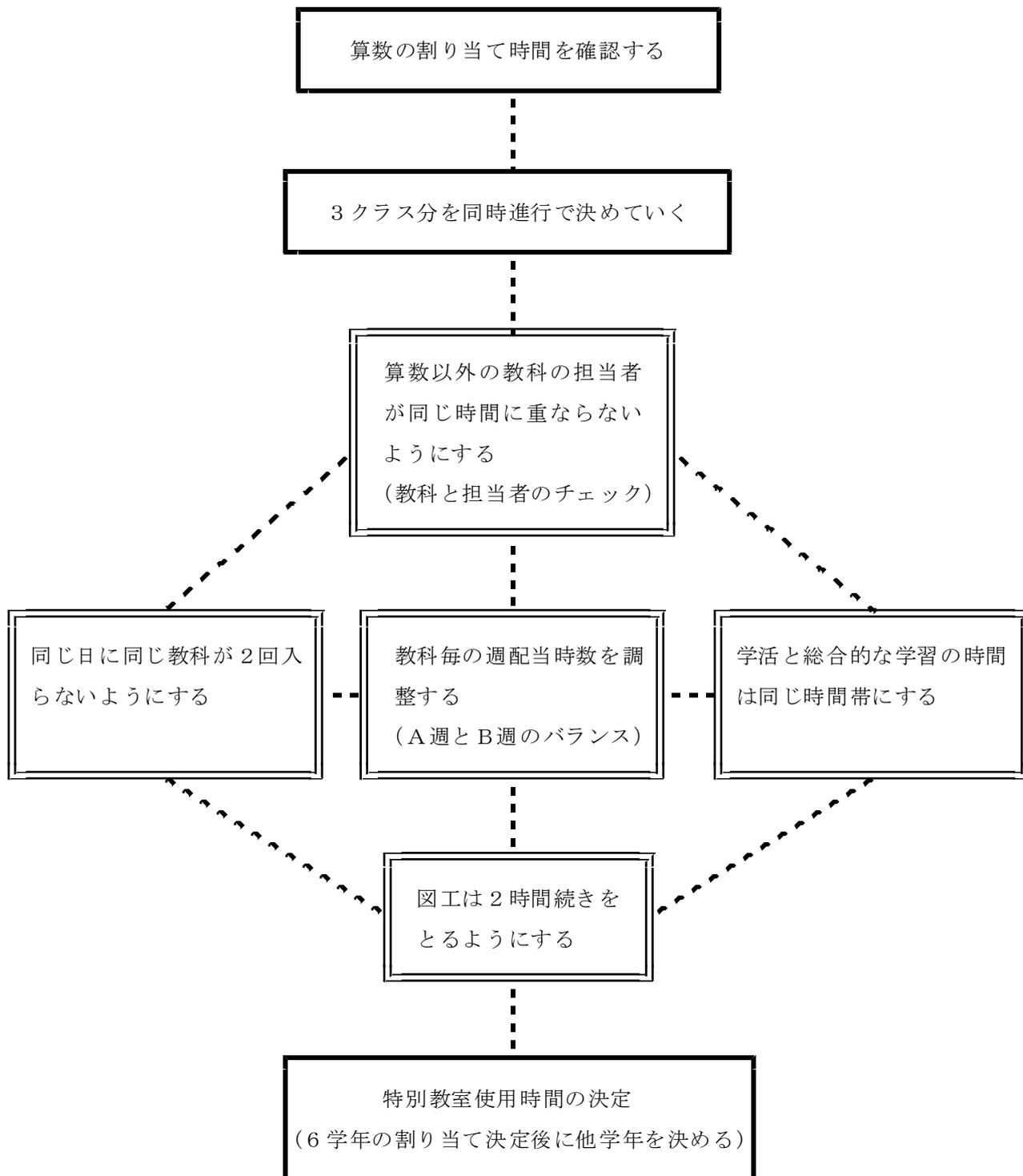
*週時数 国語(5) 社会(3) 算数(4.5)
 理科(2.5) 音楽(1.5) 図工(1.5)
 家庭(1.5) 体育(2.5) 道徳(1)
 学活(1) 総合(3)

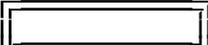
3 時間割について

時間割の作成は教科担任制を実施する上で重要な作業である。

本校では算数科の指導を習熟度別指導で行っているため、算数の時間が学年ごとに時間割上固定されている。また、2週で5時間の配当になっている理科等の指導に対応するために、A週とB週の2種類の時間割を使用している（前ページ参照）。

教科担任制の実施にあたり、以下の手順により時間割を作成した。



 内の作業を同時進行で確認しながら進めて行く。

4 時数調整・時間割の組み替えについて

常に各教科の学習進度に関する情報交換を行い、学級間で大きな差が生じないように必要に応じて時間割を調整しながら授業時間の確保に努めている。

(1) 学校行事や運動会等のための時数調整

特別教室の割り当てを基本に学年全体で動く。行事終了後、時間割通りに実施できずに進度の遅れがみられる学級や教科と、遅れの少ない学級や教科を入れ替えて学習進度の調整を行う。

(2) 調理実習等2コマ続きの授業のための組み替え

実習終了後の家庭科の時間を、実習のために実施できなくなった教科の指導に振り替えて時数調整を行う。

(3) 担当者が出張や年休の場合

担当者が出張の場合は、事前に授業の入れ替えができるので特に問題はない。また、年休の場合は、補欠として入る教師の担当教科の授業を行うことができるので、通常通り授業ができる場合が多い。

5 宿題

学級担任制の時のように教科学習のバランスをみながら宿題を出すことができないため、宿題の量が児童にとって大きな負担にならないように配慮する必要がある。教科担当者がその日の宿題を授業終了時に板書したり、提出期限を考慮する等の工夫が必要である。

6 学習パスポート

教科担任制の場合、それぞれの担当から連絡事項が出て指示が徹底しないという心配があった。特に学習用具や宿題等を忘れることは直接授業に支障を来してしまう。そこで、児童が教科担当者からの指示連絡事項を記入し、忘れ物がないよう自己管理する「学習パスポート」を作成し、以下の手順で使用させた。

- ・各学級の教科連絡係が、次時の授業の準備物や宿題、使用教室について教科担当者から指示を受け教室の黒板に板書する。
- ・児童は、板書事項を帰りの会の時にメモする。
- ・「学習パスポート」は毎朝提出させ、担任が記入事項を確認する。

学習パスポート										6年 組 名前【 】				
週	月 日 (月)		月 日 (火)		月 日 (水)		月 日 (木)		月 日 (金)					
1校時	【 】		【 】		【 】		【 】		【 】					
2校時	【 】		【 】		【 】		【 】		【 】					
3校時	【 】		【 】		【 】		【 】		【 】					
4校時	【 】		【 】		【 】		【 】		【 】					
5校時	【 】		【 】		【 】		【 】		【 】					
6校時	【 】		【 】				【 】		【 】					
その他の準備物														
宿題														
本読み														
サイン	家庭	先生												

☆きちんと書いて、毎朝提出しよう☆ 本読みの自己評価・・・パッチリ→◎ まあまあ→○ 努力が必要→△

V 意識調査

教科担任制による指導がどのように受け止められているのかを把握し、よりよい指導のあり方を探るために、導入初年度より6学年児童とその保護者を対象に意識調査を行っている。

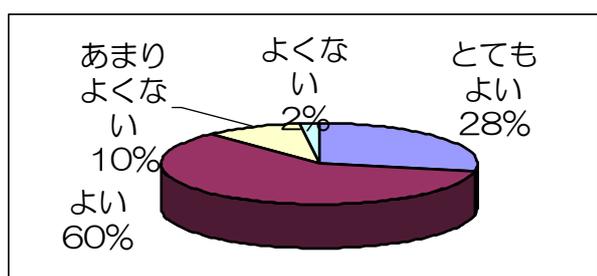
児童に関しては、年間の変容をみるために7月と2月に実施した平成16年度の結果を掲載した。また、小学校での教科担任制の経験が、中学校での生活にどのような効果をもたらしたかを明らかにするために、平成16年度から中学1年生に対する追跡調査を始めた。

【6学年児童に対する意識調査】

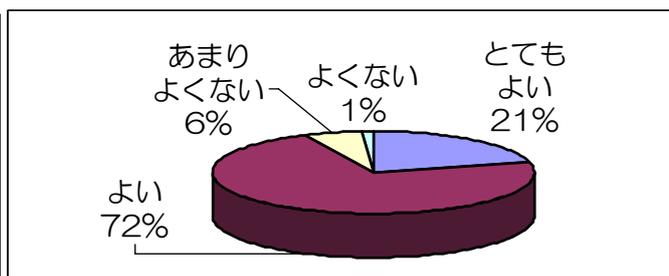
調査対象・・・平成16年度6学年児童97名

調査時期・・・平成16年7月・平成17年2月

問1 学級担任以外の先生と、いろいろな勉強をすることをどう思いますか？



7月



2月

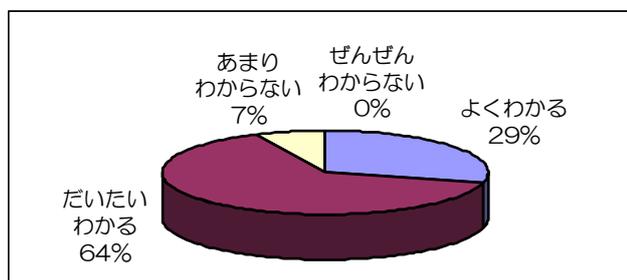
《とてもよい・よいと答えた児童の主な意見》

- いろいろな先生に触れ合え、仲良くなれる。(最多意見)
- 得意な教科なので、いろいろなことを教えてもらえる。
- その教科にあって先生が教えてくれるから分かりやすい。
- 違う先生だと違うことが学べる

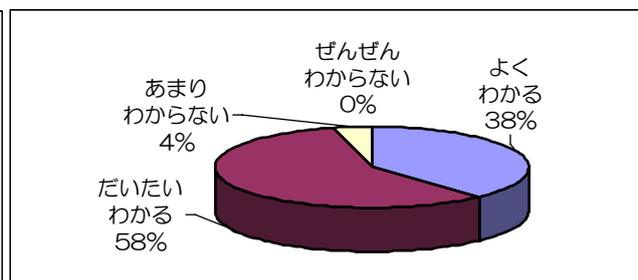
《あまりよくない・よくないと答えた児童の答え》

- 先生によって態度が違う人がいる。

問2 授業の分かりやすさはどうですか？



7月

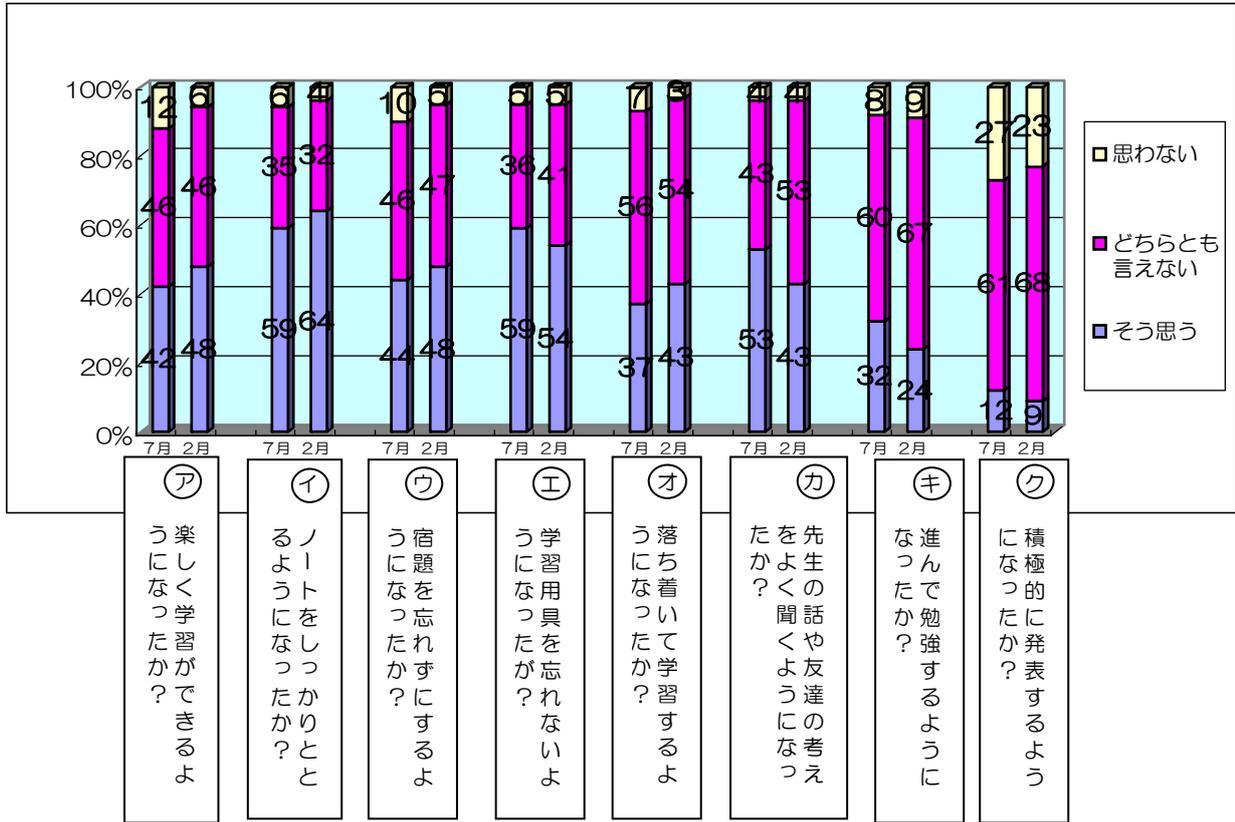


2月

《よく分かる・分かると答えた児童の主な意見》

- 説明が詳しい、分かりやすい。(最多意見)
- みんながちゃんと教えてくれる。
- 分からないところを詳しく教えてくれる。
- 楽しく、分かりやすく教えてくれる。
- 教え方が早い先生がいてついていけないときがある。
- 話が合わない先生もいる。

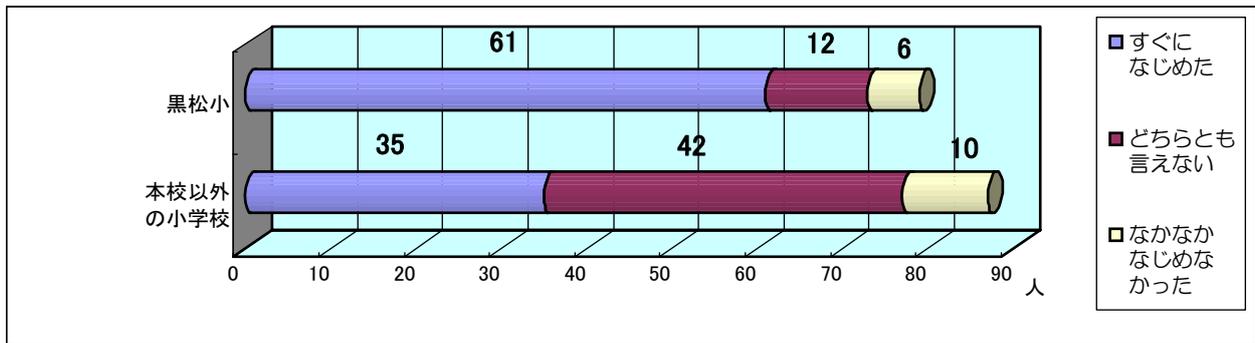
問3 自分の学習を振り返ってみて、何か変化はありましたか？



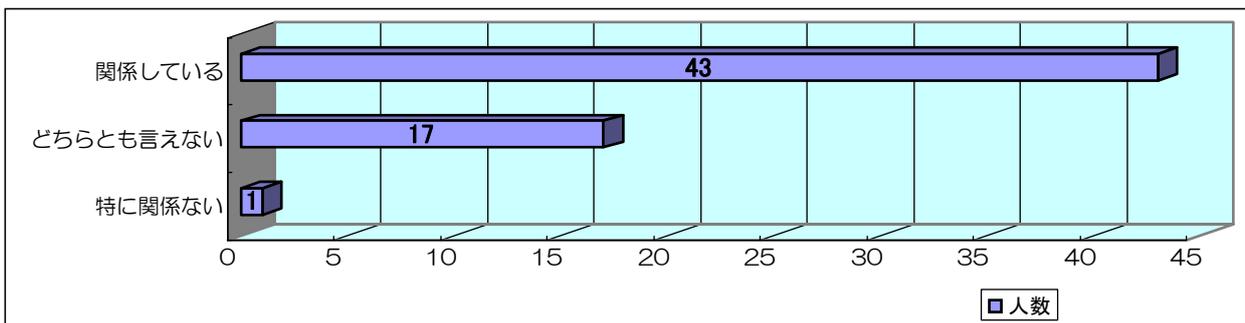
【 中学1年生に対する意識調査 】

調査対象・・・平成17年度中学1年生166名
調査時期・・・平成17年9月

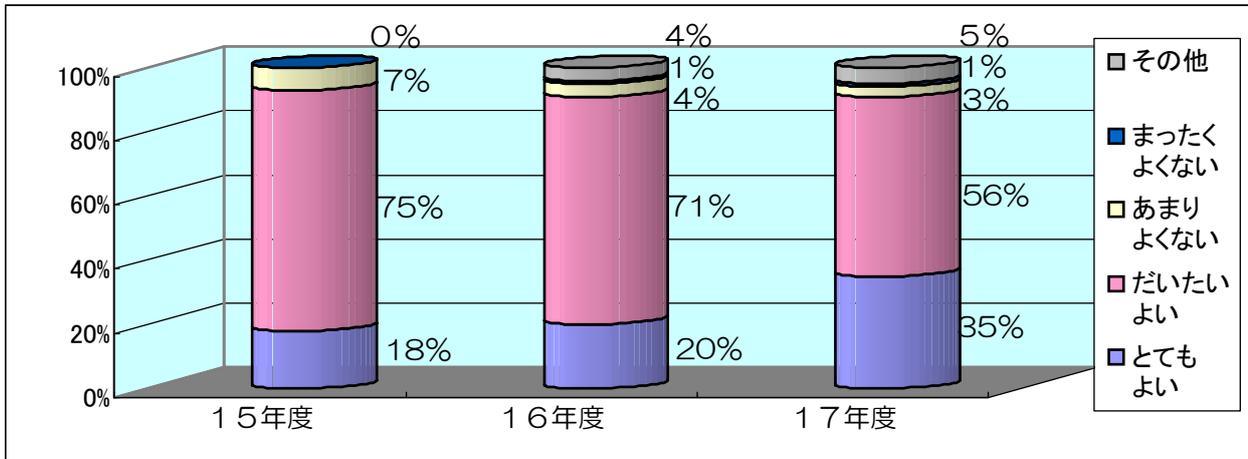
問1 あなたは入学後に中学校教科担任制について、どのように感じましたか？



問2 すぐになじめた理由として小学校での教科担任制の経験は関係していますか？
(黒松小学校61人の回答)



問 1 教科担任制の授業について、どのようにお考えですか？



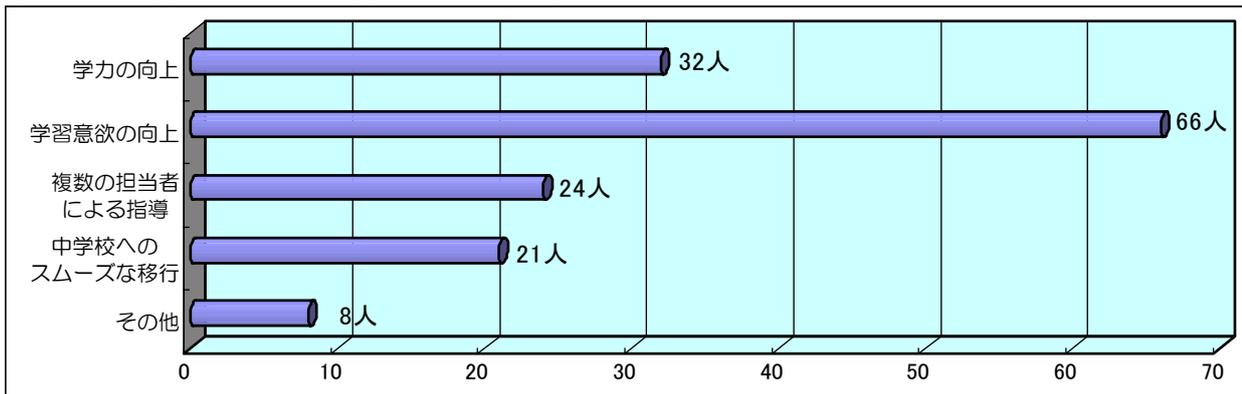
《 「とてもよい」・「だいたいよい」の主な意見・原文抜粋 》

- 担任にも苦手な教科があると思います。無理に教えるよりは得意分野や、専門性のある先生に教えてもらう方がよいかと。
- 教師が替わることで気持ちが切り替えられる。中学校でスムーズに教科担任制を受けられる。
- 「複数の教師により子供たちのよさを多面的にとらえ、可能性を見いだすこと」がよいことだと思う。

《 「あまりよくない」・「全くよくない」・「その他」の主な意見・原文抜粋 》

- 1 教科ぐらいいは、いいと思うが担任の先生の授業が少ないのはいかがでしょうかと思う。
- 子どもの体調の変化をとらえにくいと思われます。

問 2 教科担任制に期待することは何ですか？



《 主な意見・原文抜粋 》

- 教える教科を絞られた先生方の質の高い授業を受けることができるのですから、学力の向上・子供たちの意欲の向上を願っています。
- 教科担任の専門的な知識で子供たちの“へえ～”や“そうなんだ”を引き出してほしいと思います。
- “この教科おもしろい！”という気持ちが増えたら…と思います。
- これから学力の向上を望むにしてもすべて基礎となる小学校の内容を理解していなければ向上していかないと思います。そのためにも勉強を嫌いにならないよう(とびぬけた学力向上ではなく)勉強の楽しさを学べたらと思います。
- 中学に行っても状況の変化(教科担任制)にとまどうことなく授業に集中できるようにしてほしい。